

学級担任のまなざし 27

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.14(Tue)

「力を借りたら」

ある学校で、車いすを使って生活している人が子どもたちに体験談を語りました。

「私は、足がみなさんのようには自由に動かないので、車いすを使って生活をしています。足が自由に動かなくても、いろんな方法で移動できるようになれば、不自由や不便さも少なくなります。駅にエレベーターがあったり、ちょっと困ったときに助けてくれる人がいたりすれば、楽しく暮らすことができます。」

次に、その人が子どもたちに「『友達のを借りたら』の続きには、どんな言葉が入りますか。」と問いました。しばらく考えた後、ある子どもが「『ありがとう』って言う!」と答えました。「親切にしてもらったらお礼を言いましょうと教わっているのですね。大切なことですね。」他に「返す!」という発言もありました。「そうですね。借りたものはきちんと返しませうとお家の人に言われているのでしょうか。友達の力も借りたら返さなくてはという気持ちはよく分かります。でも、友達の力は借りたから返してあげるといのはちょっと違う気がしますよね。」

別の子どもが「一人ではできないことができる!」と言いました。「おおー!」という声が上がりました。「そうですね。みなさんも、どんどん友達の力を借りて、どんどん友達に力を貸すと、今よりもっともっと大きく成長できるのではないのでしょうか。この学校には、きちんと感謝を伝えることができる人や友達と協力できる前向きな心を持った人がいて、とてもうれしくなりました。」という言葉をいただきました。

助けてもらったから助けてあげるのではなく、思いやりの気持ちで力を貸してあげられる子どもに育てて欲しいと思いました。